



大明小学校

校長室から

令和元年9月27日

番外編

文責 校長 飯久保一男

細部にこだわる

子どもについてのことや保護者の皆さんへ向けての話題ではない内容が多くなってしまいました。番外編として読み飛ばしてください。私や教頭がやっている取組紹介になってしまいました…。

本校では、公式な文書や学年だよりなど、職員が作成して校外に出す文書は、まず教頭がチェックをします。教頭のチェック後、もう一度、私がチェックをします。誤解を招く表現ではないか、誤字・脱字など、二重にチェックする形です。それに加えて、私は、言葉の言い回しや文字のずれなどを細部にわたり赤ペンを入れ、修正してもらいます。細かすぎる部分もあると思いますが、うるさがられても続けています。

【そこで問題です】夏休み前の学年だよりに次のような文が出てきました。私がどこにチェックを入れるか考えてみてください。※実際にあった文ではありません。私が赤ペンでチェックを入れる個所は裏面に。

| | |
|---|-------------------------------------------------------------------------|
| ① | いよいよ子どもたちが待ちに待った夏休みになります。夏休みは児童の生活の中心は学校から家庭や地域へと移ります。 |
| ② | 通信票を渡しました。がんばったところをほめてあげてください。また、課題があるところは励ましてあげてください。 |
| ③ | 夏休みを迎えるに当たっては、親子で夏休みの予定や課題への取り組み方などを話し合っ、計画的に過ごせるようにしてください。 |
| ④ | プールのある日は、7月24日～27日、7月31日、8月1～4日、8月7日～11日です。たくさん参加して、たくさん泳げるようになってほしいです。 |
| ⑤ | 自由研究は、模造紙にまとめて提出してください。自由研究のテーマは、理科や社会でなくても大丈夫です。 |

このまま、家庭に配付しても、苦情や批判はない文だと思います。ところが、私は細部にこだわってチェックを入れます。職員は、さすがに面と向かって文句を言いませんが、「校長が代わって、今年は(私が赴任してからは)チェックが厳しくなった。」と思っていることでしょう。働き方改革に反しているかもしれません…

昨年、ある銀行で、一万円札10枚(10万円分)を千円札100枚へ両替してほしいとの依頼に、一万円札100枚(100万円分)に両替してしまったというミスが報道されていました。両替を依頼した人は、それを分かっていたのに差額である90万を返金しなかったということで検挙されたという報道でした。

※ここからの段落のみ子どもについての話です。

高学年の算数の計算で、1.23 と答えるべきところを、12.3 と答えてしまう誤答があります。計算の中で小数点の位置を間違えたのです。このミスをどう受け止めるかが、その後の正答率に関わります。

A「なあんだ、計算は合っているんだ。小数点を打ち間違えただけだ。大したミスじゃない。」

B「バカだなあ。とんでもないミスをした！」

Aのように感じる子は、また同じミスを繰り返す傾向があります。位が1ケタ違うのですから、大きなミスなのですが、数字が同じなので、小さいミスに感じてしまいがちです。社会に出てこのようなミスをしたら、上記の銀行のように、10万円を100万円に取り違えてしまうことになるのですから…。Bの子のように、反省の気持ちをもつ子は、同じミスを繰り返さない傾向にあります。



さて、表面の職員の学年だよりの文に、私がチェックを入れる場所は以下の通りです。

- ① いよいよ子どもたちが待ちに待った夏休みになります。夏休みは児童の生活の中心は学校から家庭や地域へと移ります。

「子ども」「児童」と同じ意味の別の言葉が混在しています。どちらかに統一するように指導しています。

- ② 通信票を渡しました。がんばったところをほめてあげて下さい。また、課題があるところは励ましてあげてください。

「下さい」「ください」と漢字とひらがなの表記が混在しています。どちらかに統一する必要がありますが、この場合は「ください」が正しいと指導しています。「下さい」は、何かをもらいたい・物が欲しい (*give*) という意味です。「ください」は、何かをしてほしい (*please*) という意味です。例えば八百屋で「大根を下さい」や喫茶店で「コーヒーを下さい」という場合は「下さい」でいいのですが、「ぜひご参加ください」「連絡してください」の場合はひらがなで表記することが正しいです。仮に「下着を取り替えて下さい」と書くと、厳密には「あなたが着替えた下着を、私に(与えて)ください」という変な意味にもなってしまいます。

※目下や身内には「あげる」ではなく「やる」をつかうことが正しいとされてきましたが、最近は美化語として認められています。

- ③ 夏休みを迎えるに当たっては、親子で夏休みの予定や課題への取り組み方などを話し合って、計画的に過ごせるようにしてください。

「,」と「、」が混在しています。どちらかに統一するように指導しています。3年生の国語の教科書では、横書きの場合は「,」を使うことを推奨しています。横書きの教科書はすべて「,」を使用しています。

- ④ プールのある日は、7月24日～17日、7月31日、8月1～4日、8月7日～11日です。
たくさん参加して、たくさん泳げるようになってほしいです。

その1 「プールのある日」でも伝わると思いますが、体育館で体育の授業をする日に「体育館のある日」と書くことと同じになります。この場合は「学校のプールを開放する日」と書くことが正しい表記です。

その2 「ほしいです」という言い回しは「形容詞+です」という形です。この言い回し、例えば「暑いです」などは、文化庁が許容を認めています。しかし、言葉を指導している教師としては、許容されている言い回しではなく、正しい言い回しをすること、「暑くなってきました」「暑く感じます」などとして、「形容詞+です」という言い回しを避けることを指導しています。

- ⑤ 自由研究は、模造紙にまとめて提出してください。自由研究のテーマは、理科や社会でなくても大丈夫です。

その1 「大丈夫です」という言い回しは辞書によると【勧誘などを遠回しに拒否する言葉で、そんな気遣いはなくても問題ないの意から、主に若者が使う俗語。本来は不適切。】とあります。「No Thank you」の意味でつかわれ、きっぱり断ると相手を傷つけたり、失礼にあたりたりするので、最近は若者を中心に、大丈夫が俗語として出回っています。外部に出す文書に俗語を使ってはまずいと指導しています。

その2 「テーマは理科や社会でなくても…」これでも伝わる表現だとは思いますが、「理科や社会科の内容をテーマに取り組まなくても…」と書いた方が正確であり、伝わりやすいと指導します。また「社会」という表記は教科以外の意味ももちますので「社会科」とすることも指導しています。



「神は細部に宿る」といわれます。細かいことですが、このくらいいいじゃないかと思うのか、こういうことこそ大切にしなければならないと思うのかの違いで、人間の評価が変わる場合があります。それならば細かいことにまで気をつかうべきだと考えます。この校長通信もミスがないように何度も読み返し、教頭のチェックを受けています。それでも、発行してからミスを指摘され、ショックを受けることもあります。

過去には誤りとされていた言葉が、正しい言葉となることがあります。時が経つと言葉は変化します。「新(あらた)」が「新(あた)らしい」と変わったように、「丁字路」を「T字路」としてもよくなったように…、そのうち、「大丈夫です」や「形容詞+です」という言い方が正式に認められるかもしれません…。